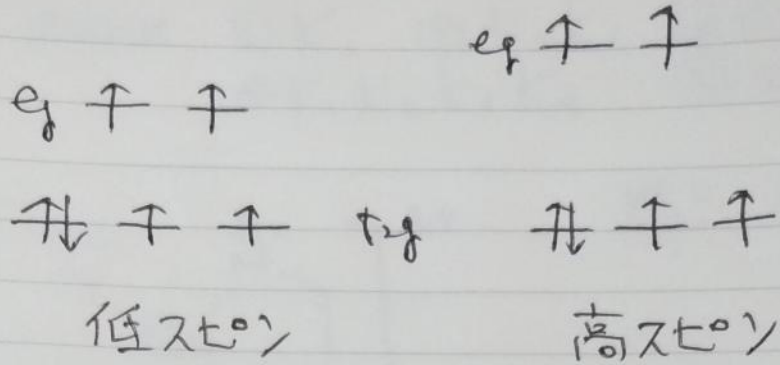


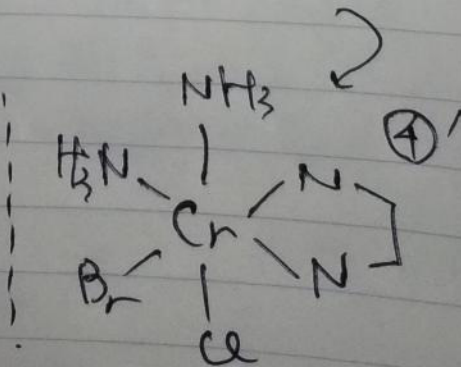
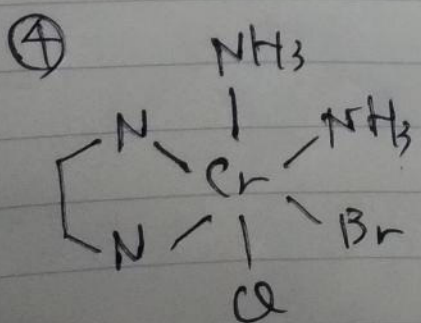
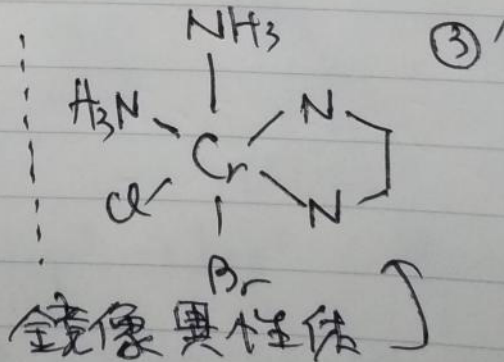
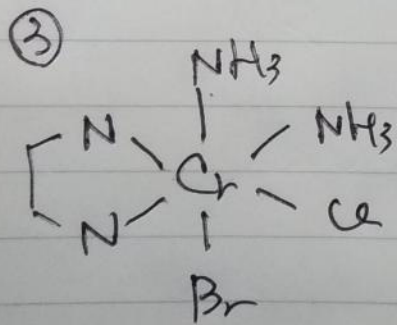
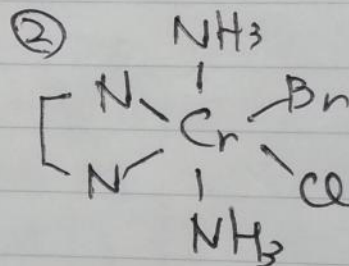
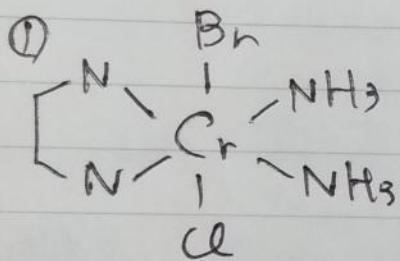
4 問1.



(Co^{3+} は d^6 錯体)

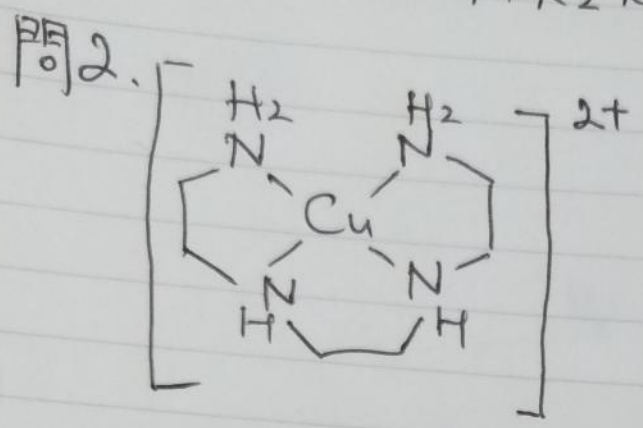
問2. 3

問3. 47.



[5]

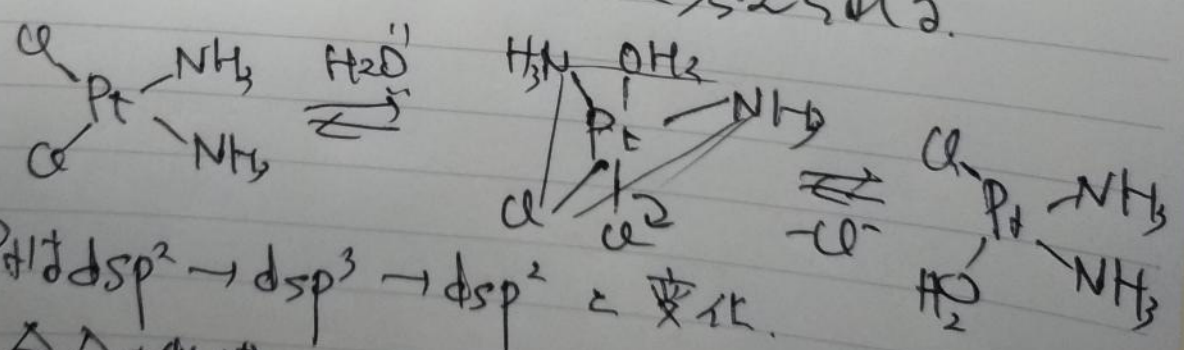
問1. ~~2.0 x 10^-3~~ ① K, ② K₁K₂ ③ K₁K₂K₃
④ K₁K₂K₃K₄ ⑤ 2.0 x 10⁻³



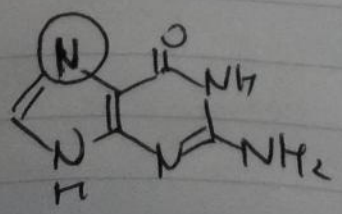
問3. $\neq L - t$

[6]

問1.
 (1) labileな配位子が2つ、シス型に配位置。
 inertな配位子は、二座配位子でも良い。
 (2) 錯体全体の電荷が中性である必要がある。
 inertな配位子は、二座配位子が良い。
 問2. 会合機構で進行すると考えられる。



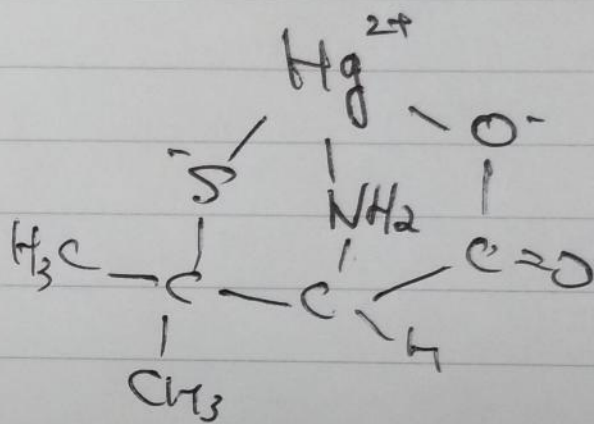
Ptは $dsp^2 \rightarrow dsp^3 \rightarrow dsp^2$ の変化。
 会合機構が進行するのは、2つある軌道に利用される軌道があるため。
 最も平衡反応の律速段階となる。



7

問1. 省略

問2. Hg^{2+} は大きなイオンなので、三座配位 により機能



問3.

